

こむぎ通信

令和6年2号

1 生育状況

県生育観測ほの幼穂形成期は平年より2日遅い4月1日で、地区生育観測ほは平年より1日早い4月1日であった。

草丈は、県生育観測ほ、地区生育観測ほとも平年を上回り、m²当たり茎数は、県生育観測ほは平年より少なく、地区生育観測ほは平年を上回った。

生育調査結果		品種：ネバリゴシ			
地点名	年度	生育ステージ		4月10日	
		は種期	幼穂形成期	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)
県生観 十和田市	本年	10月7日	4月1日	19.2	1,244
	平年	9月28日	3月30日	18.8	1,416
	相坂	平年差・比	遅9日	遅2日	102%
地区生観 十和田市	本年	10月13日	4月1日	23.3	1,140
	平年	9月28日	4月2日	16.8	803
	赤沼	平年差・比	遅15日	早1日	139%

※平年は、県生観：平成23年～令和5年産、赤沼：平成19年～令和5年産の平均値

2 今後の見通し

東北地方の1か月予報(4月13日～5月12日)では、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見通しである。

出穂期、開花期ともに平年より早まると見込まれ、幼穂長(4月15日現在)から予測した出穂期は5月15日、開花期は5月24日と予想される。

3 今後の対策

(1) 病虫害防除

- ・うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に1回行う。
- ・アブラムシ類の早期発見と早期防除に努める。

(2) 追肥

一般に、止葉抽出期の追肥は一穂粒数を増加させる効果があり、止葉抽出期～出穂期の追肥は子実のタンパク含有量を高める効果が期待できる。

追肥量は10a当たり窒素成分で2kgを基準とし、生育や葉色等で追肥量を加減する。